

2010年7月30日(土) ニューデリーにて

インドの知恵

吉野 宏

インド5千年の知恵は数あるがそれは何かと問われれば、ヨガにインド占星術、そしてアユルベーダの3つは直ぐに思い浮かぶ。それらは現代インド一般庶民の日常生活に根づいており生活の一部となっている。朝の公園でヨガを楽しんでいる人々を見かける。インド占星術は日本で言うところの婚活時に結婚相手探しに威力を発揮している。アユルベーダは毎日の食事に反映されている。TVもそれぞれの3種類の番組を毎日放映しており情報収集は簡単である。又、その道を極めた人もおり尊敬されている。何せインドには生き神様だけでも2人、サイババとダライラマ、いらっしゃるお国柄である。

インド8月の話題を一つ紹介したい。インド占星術に関して興味深い。

日本の終戦記念日とインドの独立記念日は何故か同じ8月15日。2年の違いはあるが、両国民にとって現代史の節目となる非常に重要な日が同日とは何か縁でもあるのだろうか? 素朴に疑問に思った。昨年はその4日前8月11日(火)に地震が発生した。インドでは午前1時25分マグニチュード7.8の地震がアンダマン諸島ポートブレアの北260Km、深度33.1Kmを震源地として発生。幸い津波は起きなかった。この地震から12分後の午前5時7分(インド時間で午前1時37分)、日本では静岡で震度6弱の地震が発生した。地球の深部ではインドと日本は繋がっていることを実感した。インドでは8月15日独立記念日にプラナキラーで内外に向けて恒例の首相演説があることで知られる。歴史的に1期5年を任務完了し総選挙で大勝して2期目を迎えて演説する首相はネルー初代首相に次ぐ2人目となることから、今年のスピーチは自信に満ちた印象を受けた。今年はどうな首相演説となるか楽しみである。さて昨年の演説の冒頭部を私訳ながらご紹介する。インドの8月15日の意味が理解できる。

《親愛なる国民の皆様へ

私は再び8月15日という聖なるこの日に皆さんにご挨拶できる機会を得て幸運を感じるものです。最も確かに言えることは、今日という日は私たちにとって幸せと誇りに満ちているということです。私たちは私たちの自由を誇りに思います。私たちが持つさまざまな価値観とさまざまな思想は誇りであります。しかし、同時に私たちがかくのごとく今日あり得るのは先人たちの幾多の犠牲の上に成り立っていることを思い起こさねばなりません。自由のために闘ってくれた戦士たち、国を守ってくれている軍人、農民、労働者そして科学者たちの犠牲と苦難という基礎の上に今日の私たちの存在と発展はあるのです。今日、

私たちはわが国家の自由と安全のために自らの生命をかけて殉じた全ての人々を思い起こします。これら私たちの国に殉じた勇敢な人々に敬意を払う最良の方法は、私たちの国と社会を纏める一致団結と統一を一層強めることを常にコミットし続けることでもあります。インドをより偉大な高所に導く努力を惜しまないことを一緒に誓い合おうではありませんか。数ヶ月前に行われた総選挙によって国家と民主主義は強められました。インド国民は、選挙を通じて国家と社会を統一する政治を支持しました。皆さんは、世俗主義と多様な考え方を受け入れる政治を選択したのです。さまざまな相違を話し合いを通じて解決する民主主義のやり方に一票を投じてくれました。私は、皆さんと一緒に日々協力して調和を保ちながら新たな時代を切り開く権限を与えられました。》

昨年62回目となる首相演説冒頭部である。隣国パキスタン（独立時の西パキスタン）は8月14日が独立記念日なので、デリーに来て7回目の演説をきいたが毎回ルーツが一緒の両国は何故同じ日に一緒にお祝いしないのか、何故インドは独立記念日が1日ずれているのか？素朴に疑問に思っていた。英領インドは印パに分離独立した歴史があることは誰でも知っているが、この分離独立の歴史的背景と何故独立記念日が微妙に違うのかこの2つの点は余り知らないのではないか。

元インド人民党（BJP）幹部で外務大臣と財務大臣を歴任したジャスワント・シン下院議員（ダージリン選挙区選出）は彼の著書、「ジンナー：インドの分断と独立」を昨年8月17日出版して話題の人となった。この出版で同議員は、パキスタンの建国の父ジンナー（1876～1948）を賞賛しているが、この内容が所属政党であるインド人民党（BJP）としての党の基本方針から逸脱していると判断されて8月21日にBJPより追放処分となってしまった。今年6月BJPに復帰した。シン首相が所属する与党の国民会議派（1885年創立）と野党BJP（1980年結成）は、歴史的に“英国がジンナーと結託してインド独立後も分断統治を制度化する狙いでインド・パキスタンに分断を強要した。”との歴史認識を共有して来たが、緩やかな連邦制を主張したジンナー（1886年結成された全インド＝イスラム連携総裁に1916年就任）を拒否して中央集権国家を主張したネルー一派が分断国家の一因でもあったと元外相の歴史認識が記されている。私としては始めて聞く歴史認識だ。この著書は一部の州で発売禁止になったので、インドが誇る民主主義、言論の自由は何所へ行ってしまったのかと疑問に思った。600ページを超える大著を手に入れたが重い本で、ツンドク状態にある。

さて、次に独立記念日の違いについて、インド占星術の権威K.N.ラオ先生が最高裁で「インド占星術は科学である。」との戦いに勝利した際に行った陳述の中に、インド独立に関するインド占星術物語があることを学んだ。インド占星術は、アユルベーダやヨガと並びインド5千年の英知の結晶だ。それがインド独立記念日と言う重要な日取り決定に如何に貢献したかの説明である。そのさわりを私訳する；

- 英国の政治家でジャーナリストそして作家でもあったWoodrow Wyatt卿（1918-1997）の記述が引用されている。1947年英国政府とマウント・バッテン印度総督は、遅すぎないことを希望しつつ8月14日をインドとパキスタンの独立の日を選択した。ムスリム連盟のジンナーはこの日のお日柄に関心はなかった。ヒンドゥー指導者達は頭を抱えた。何故なら、インド占星術家が8月14日はお日柄が良くないと報告したからである。仕方なく、次善の策として当日の最良の時間を選ぶことになった。占星術家は真夜中を選択した。結果、パキスタンは14日となり、インドは14日の真夜中、正確には15日選ばれた。
- インド占星術家Hardeo Sharma Trivediの記述が引用されている。1947年英国の統治者たちがインドの独立は8月14日と決定を下した時に、ウツジェインの占星術家は後にインド初代の大統領になるBabu Rajendra Prasadに対し、インドは「この日では祝福されない。」ことを伝えた。この日のいかなる時間を選択しても英国は認める用意がある事を知らされたので、自分（Hardeo）は真夜中を主張した。月の位置が昼より夜の方が幸運だから（プシャー・ナクシャトラ）が第1の理由。次に、ヒンドゥーの二大神話、「ラーマーヤナ」に登場するラーマ神、そして「マハーバーラタ」に登場するクリシュナ神の誕生日の時刻（アビジット）が、それぞれ昼の中間時刻と夜の中間時刻であることから、この時刻であれば祝福される。この場合は夜が先に選択されているので、14日の日の入り時刻が午後5時33分31秒、15日の日の出の時刻は午前6時57分31秒をとり、この間の中間時刻は15日午前零時15分。こ時刻の前後20分が祝福される許容範囲であることから、15日午前零時零分一秒となる。ネルーはインドの臨時国会を14日夜から召集し、真夜中に独立を祝った。



1947年8月15日午前零時零分一秒が独立国家インドの誕生時刻となり、この瞬間にインドの統治権が大英帝国からインドに移ったのである。こんな経緯があつてインドの自由獲得は、真夜中の自由（Midnight Freedom）と呼ばれるようになった。

（左の写真：ニューデリーにあるネルー博物館に展示されたインド独立日展示室に展示された8月14日・15日の真夜中の自由の現場写真より）

インドの政治家は誰もインド占星術に世話になったことを語ってくれないと、米国ロナルド・レーガン元大統領が、“私がホワイトハウスの主人であった時代に下した目に見える全ての主要な動きと決定の背景には、まず先にサンフランシスコにいてホロスコープを見て判断を下した一女性がいた。”と語ったことを引き合いに出しながら、ラオ先生は嘆いている。

了